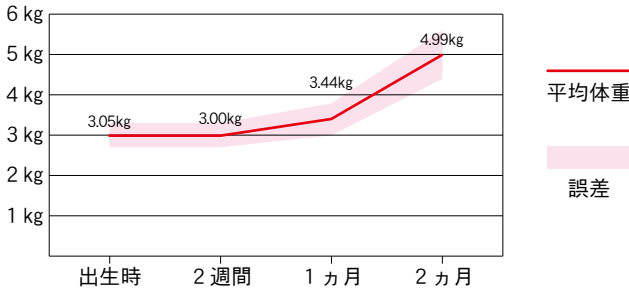
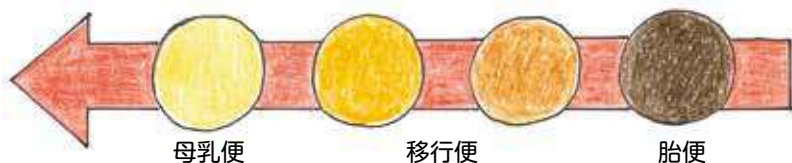


新生児期の赤ちゃんの体重増加と糖水やミルクの補足

■ ③のタイプの赤ちゃん30名の生後2ヵ月体重の平均



2009年のUNICEF/WHO「母乳育児支援ガイド、ベビック・コース」には「生後数日は体重の減る赤ちゃんもいます。これを生理的体重減少と呼び、赤ちゃんが子宮の中で蓄えた余分な体液を排泄するからです。赤ちゃんは生後2週間までに出生時の体重に戻る必要があります。」と記載されています。そのことについて堺武男は出生後の体重増加には3つのパターンがあると述べています。①出生後2〜3日から増加するタイプ。②1週間ほど体重減少後増加するタイプ。③2週間ほどまで体重減少が続く、その後ゆっくり増加するタイプ。つまり赤ちゃんの発育は一樣ではないということがわかります。この3番目のタイプは、2週間健診などで「ミルクを足しましょう」と言われることが多い赤ちゃんです。それまでに母乳は1日に10〜15回くらい飲み、おしっこもうんちもすっかり出ていますが体重は2週間あたりまでゆっくり減り続けます。でもこの後の経過を見ると、体重は増え始め、1ヵ月健診までの2週間に500gくらい、その後の1ヵ月では1.5kgくらい増えてくれることが多いようです。母乳の分泌が少しゆっくりなのかもしれません。人工乳は足さずに経過を見ても大丈夫なことがほとんどです。その間お母さんは心配かもしれませんが、2週間健診や、



1カ月健診で相談しながら赤ちゃんが元気であれば母乳育児をそのまま続けて下さい。体重の推移については右上の③のタイプの赤ちゃんの体重推移を参照して下さい。このグラフは35人の赤ちゃんたちの平均ですがみんな同じような経過で育ってくれます。ミルク（人工乳）は一滴も足していません。

赤ちゃんが健康であり、十分な量の母乳を飲んでいればできるだけ自然に見守りたいものです。

では、赤ちゃんが十分な哺乳をしているかどうかを判断する目安は体重の他にどのようなものがあるでしょうか。次の2点に着目してみましよう。

① おしっこの回数

生まれて間もない数日は少しの初乳を飲むだけです。おしっこの回数は少なくおむつ1〜2枚の交換で済みます。しかし、生後1週間頃には6枚から8枚のおむつの交換が必要になります。

② うんちの色

生後5日目ぐらいでうんちは黒緑色の胎便から、マスタード様の黄色になります。うんちの色が黄色に変わった後は1日3回から4回の排便になります。

以上のような尿と便の具合から見て哺乳量が不足していると判断した



場合は「補足」を行います。

哺乳量が不足していると判断した場合、搾乳が十分できる場合は搾母乳を、搾母乳が十分採取されない場合は人工乳や糖水の使用も考慮します。

補足量は赤ちゃんの状態と哺乳の状態により異なります。一般的に生後1日目の赤ちゃんの胃容量は5〜6cc、3日目で20cc位、10日目で60cc位と言われています。補足の量は胃容量と哺乳の量、赤ちゃんの状態をみて決めます。特に人工乳は母乳に比べて胃の停留時間が長いので、ある程度哺乳ができている赤ちゃんを満腹にしてしまうと、おっぱいからの哺乳をしなくなってしまうかもしれません。お母さんが、補足量がわからない時は医療者に相談するとよろしいでしょう。生後日数、体重増加の状態、哺乳の状態などから補足量を提案してくれると思います。

乳頭混乱

おっぱいからの直接哺乳（直母）と哺乳びん（ゴム乳首）からの哺乳では乳汁の出力が異なります。直母ではおっぱいを吸い始めてから1分ほどして射乳反射と呼ばれる動きが乳首におこり、それから母乳が分泌されます。それを赤ちゃんは口全体を使って乳首をしごくように吸って哺乳します。それに対して哺乳びんでは赤ちゃんがゴム乳首をくわえた瞬間にミルクが出てきます。その飲みかたも上下の唇を動かすだけになります。

この哺乳びんによる飲みかたに赤ちゃんが慣れてしまい直母を嫌がるようになり、身体をのけぞっておっぱいを拒否するようになることがあります。この現象を赤ちゃんが乳頭を間違えるためにおきるという意味で「乳頭混乱」といいます。乳頭混乱が起きるとそこから立ち直るのはとても大変です。

ところがこの乳頭混乱そのものも考え方や原因について医学的には定まっておらず、現在は「いわゆる乳頭混乱」という言い方が一般的です。

それでもこういう現象があることは事実ですので、不必要な哺乳びん（ゴム乳首）やおしゃぶりの安易な使用は避けることをお勧めします。そのためにカップ授乳やシリンジやスプーンによる補足が薦められているのです。

しかし、カップ授乳等は慣れが必要ですので、お母さんたちが自宅で補足する場合に哺乳びんの使用も致し方ない事です。その場合、できるだけ直接授乳を阻害しないように作られた人工乳首を使用するとよいでしょう。

補足は哺乳びんを用いて行うのですか？

赤ちゃんがお母さんの乳首を吸うことを邪魔しない補足の方法としてカップ授乳やスプーン授乳が良いとされています。

A Q

哺乳びんについているゴム乳首の吸い方とお母さんの乳首の吸い方は異なっています。赤ちゃんにゴムの乳首を吸わせ続けているとお母さんの乳首をゴム乳首の吸い方で吸う癖ができてきます。そうなると上手に哺乳乳が出来なくなり赤ちゃんの体重が増えないばかりか、お母さんに乳腺炎が起きることもあります。これを「乳頭混乱」(40ページ)といいます。

参考文献 (HPサイト)

1. La Leche League International. The Breast feeding ANSWER BOOK,3rd ed.79-80
2. La Leche League International. The Breast feeding ANSWER BOOK,3rd ed.268-269
3. 安心の母乳育児 日本母乳の会